
學 會

岡山醫學會第377回通常會

同會は豫期の如く本月21日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會す生沼主幹開會を宣し直ちに次の講演に移る

1. 歸朝談

教授 津田 誠次君

昨年5月12日神戸港を解纜し米國及び歐洲の各國大學及び研究所を巡覽せられたる概略を述べられたり。

2. 「コラーゲン」の抗原性並に

抗體に就て

衛生學教室 鎌谷 秀武君

組織及び骨膜を除去したる骨を稀薄なる鹽酸中に長く浸漬し、無機鹽を除去したる部分より削取り得たる「オsein」の削屑を水洗後、多量の稀薄なる「ナトロン」液にて長時間處理して骨「ムコイド」、「ヌクレオプロテイド」並に「ヘモグロビン」の分解成生體を除去したる後「トリプシン、アルカリ」液の大量を以て孵卵器中にて作用せしめ、骨「アルミノイド」弾力性纖維、其の他血管の殘留物を除きて更に水洗後、稀薄なる鹽酸にて無機鹽を除き、「アルコールエーテル」を用ひて類脂體を除去して乾燥せしめたる「コラーゲン」を以て免疫したるに「コラーゲン」其の物の溶液を以て家兎を免疫すること困難なるに反し、「コラーゲン」を、吸収力の強き非抗原性物質たる「アドゾルビン」に結合せしめたる物質を免疫原として家兎靜脈に微量反覆注射を行ひて得たる抗「コラーゲン」家兎免

血清は容易に「コラーゲン」溶液其のものを反應原とせる沈降反應を起し、僅に「ゲラチン」溶液にも反應す。而して吸收試験にて「ゲラチン」抗體を除去したる抗「コラーゲン」家兎免疫血清は良く「コラーゲン」に特異性の沈降反應を起さしむることを得たり。補體結合反應並に能働性過敏症も亦容易に起し明かに「コラーゲン」の抗體產生を見たりき。而して此能働性過敏症實驗に於て其の症狀の表はれ方は普通一般に見る過敏症より、再注射後の時間を長く要し緩徐に症狀を表せり。

3. 骨髓局所免疫による抗體產生

に就て

衛生學教室 徳重 一志君

余は鶏血球を抗原として3種の免疫方法にて骨髓局所免疫をなして骨髓の抗體產生を検し尙ほ對照として血清並に非免疫骨髓及び他臓器の抗體量を檢出せり。

正常家兎骨髓1回局所免疫。大腿骨榮養孔を閉鎖せる家兎の大腿髓1回局所免疫。正常家兎骨髓2回局所免疫。

1) 正常家兎骨髓1回局所免疫

24時間には免疫骨髓のみならず各臓器にも抗體の產生を證明せず、48時間に至れば血清に血球凝集價1:10—1:40免疫骨髓浸出液に於てもその $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{2}$ の抗體價を證明し非免疫骨髓及び他臓器浸出液には證明せず。72時間の成績には免疫骨髓浸出液は血清の凝集素の1—2倍量を含有して1:80—1:200の抗體價を示すも非免疫骨髓浸

出液は1:10—1:20の抗體價を有す。以後次第に血清の抗體價最も高くなり免疫骨髓、非免疫骨髓脾臓肝臓の順位となるは骨髓に注入せる抗原の血行に流出して一般免疫の状態となるためならん。

2) 大腿骨榮養孔を閉鎖せる家兎の大腿骨髓 1回局所免疫。72時間の成績最も見るべくして免疫骨髓の凝集價は血清の凝集價の4—5倍にして1:80—1:200を示すも非免疫骨髓及び他臓器に抗體を證明せず。

3) 正常家兎の2回骨髓局所免疫。

免疫初期に於て免疫骨髓の抗體價脾臓及び非免疫骨髓のそれよりも遙に低きは第1回局所免疫にて局所に產生せられたる抗體は第2回に注入せる抗原によりて中和せられて減少するも他臓器は其の影響を受ける事少きによるものなるべし。5日以後には抗體價は血清免疫骨髓非免疫骨髓脾臓肝臓の順位となる。

4) 血管免疫後骨髓を刺戟するために局所に牛血清又は生理的食鹽水を注入する實驗を行ひしも刺戟によりて特に抗體の骨髓に集中するを認めざりき。

5) 脾臓及び肝臓の局所免疫をなせるも一般血管免疫と同じく骨髓の抗體產生に影響なし脾臓局所免疫の場合脾臓浸出液には血清の $\frac{1}{2}$ 以下の抗體を證明し骨髓局所免疫の骨髓浸出液の抗體量に及ばず。

6) 一般血管免疫にては骨髓浸出液の凝集價は血清の $\frac{1}{4}$ 以下にして、血清の凝集價1:80にては未だ證明せず。

以上の實驗にて骨髓局所免疫は可能にして血球凝集素產生に於ては脾臓に勝るものと認む。

右終りて午後6時閉會す。當日の出席者は無慮100餘名なりき。